



新津の文化財・絵画

普談寺絵馬一對

朝日の観音様で親しまれている普談寺は、天正以前（一五七二年以前）から続く、新津市域では由緒のあるお寺です。

この普談寺に代々伝わる絵馬一對は、室町幕府の御用絵師で狩野派の新しい作風を完成させ、古法眼といわれた狩野元信の作と伝えられています。

絵馬の中に描かれた馬が、手綱で繋がれているのは大変珍しいことですが、これについては、奉納された絵馬に描かれた馬が、夜な夜な抜け出して田畑を荒らしまわするため、この話を聞き付けた元信が馬に手綱を書き加えたところ、馬が抜け出さなくなったという、言い伝えが残っています。

新津市内に現存する絵馬の大部分は江戸時代末期に作られたもので、天正十九年（一五九一年）新津城主新津氏の配下と思われる船山某によって奉納されたこの絵馬は、乱世の時代に武人の手によって奉納されたという事実も考え合わせ、当時のことを知る上で大変貴重な資料ともいえます。

市民文芸

短歌

小錦と呼ばれる鯉の他を圧し巨体くねらせ人目をひきぬ

波辺 久 栄 萩 島

俳句

デジタルの時計かたりと変わり冬

荷卸しのロシヤの船や冬の虹

川柳

初詣 柏手だけを高く打つ

拳骨の中で大正 息ひそめ

鉄道

資料館だより

(16)



びょうぜ 平瀬トンネルの石碑

磐越西線の平瀬トンネルは、日出谷―鹿瀬駅間にある入沢山を貫く長さ二〇〇六mのトンネルです。そのトンネルの日出谷側杭門に「焉興蔵宝」（宝蔵はここにおこる）と黒御影石に刻まれた石碑があります。また反対側の出口杭門にも同じように「焉殖財貨」（貨財はここにふゆる）と刻まれた石碑があります。揮毫はいずれも当時の鉄道院総裁後藤新平男爵の筆によるもので、明治四〇年に開始した新津―喜多方間の鉄道建設が、一人の犠牲者もなく完成したことを特に喜ばれて、記念にしたためたものです。当資料館はその拓本を掲出しています。

「文芸にいつ第20号」が発刊されました。中央公民館、荻川地区公民館、図書館でお買い求め下さい。

1冊 1,000円